

平成三十年 卒業式 式辞

時折、吹く風は、まだ冷たいですが、日一日と春の訪れを感じる今日の良き日に、明石市教育長 清重隆信様、明石市議会議長、穂原成人様をはじめ、多くのご来賓の皆様、そして保護者ご家族の皆様の臨席を賜り、平成三十年 度「明石市立二見中学校 第七十二回 卒業証書授与式」を挙行できますことを誠にうれしく思います。高いところからでは、ございますが、皆さまに厚く、御礼、申し上げます。

本日、本校を巣立ちゆく、第七十二回生 二六六名の皆さん、卒業おめでとう。

皆さんは、平成二十八年四月に この二見中学校に入学しました。その時まだ、皆さんには、あどけない小学生の雰囲気 が漂っていたことを、私は思い出します。

しかし、三年間の中学校生活で、勉強や生徒会活動、部活動、その他、多くの体験を通して心と体を鍛えようとにも、沢山の知識や智恵を身に着けて、大きく成長した皆さんの姿が、今ここにあります。

無事に今日を迎えられたのは、皆さん自身の努力の賜物であることは間違いありません。しかし同時に、いつも深い愛情を持って育ててくださった、ご両親や家族の皆さまをはじめ、先生方、先輩、友達、そして暖かく見守って下さった地域の皆様方の支えがあったお蔭であるということを決して忘れてはなりません。

今日という日は、自分を支えてくれた多くの人に改めて感謝するとともに、四月からの、新たな人生のスタートに向けた決意を、しっかりと固める日でもあります。

卒業生の皆さん、私は校長として、まず皆さんに心からお礼を言いたいと思っております。それは、皆さんが、二年間にわたり、先輩たちから受け継いだ「アイ♥️FUTAMI宣言」に込めた思いを、一丸となつて、実践し続けてくれたという事に対してのお礼です。皆さんのおかげで、二見中学校は更に大きく前進し、明石で一番の中学校になったと私は断言します。本当にありがとうございます。

皆さんを送り出した後すぐに、私も定年退職となり、別の意味で二見中学校を卒業します。お互いに二見中学校の卒業生であることに誇りを持ち、胸を張って生きていきましょう。

さて、ここからは、最近の話題の中で、是非、これから皆さんに考えてもらいたい三つのことについて、お話しします。

まず、皆さんは、平成最後の卒業生です。西暦で言うところ、あまり意味はないのですが、将来、皆さんは、「平成最後の年に中学校を卒業したんだよ。そして、その年の途中、五月から「〇〇」という時代がはじまったんだ。」なんて、何となく自慢げに、自分の子供に話したりするかも…、などと思ったりもします。

平成の三十年間は戦争がなかった時代とも言われています。これは、とても素晴らしいことです。三年後には選挙権を手にする皆さんです。新しい時代も「平和を守る」という、強い信念を持って、行動してくれることを願っています。

一方で、残念で悔しいことに、平成の時代は「阪神淡路大震災」や「東日本大震災」をはじめとして、多くの大きな自然災害が起こり、一瞬で、極めて多くの尊い命や、大切な財産が失われた時代でもありました。これらの被害は、ある意味、戦争による被害に匹敵するくらいのものであったと、私は思っています。

被害からの復興が、まだまだ、道半ばの地域も数多くあります。そしてさらに、近い将来、次々と大きな地震や津波が起こることが予想されています。国を挙げての「防災対策」や、被害を最小限に食い止めるための「減災対策」が、極めて重要ですが、最も重要なのは、皆さん一人ひとりが、「自分の命は自分で守る」「家族の命は、家族で守る」という事を忘れないことではないでしょうか。どうか、他の何より「命」を大切に考え、どのような状況になっても、強く、たくましく、生き抜いてください。

二つ目のお話です。日本は、「人口減少時代」を迎えました。国は、人手不足解消のために、多くの外国人人材の受け入れを進めようとしています。ただ、到底解決できる問題ではないと、私は思います。現実のこととして、近い将来、私も高齢者となって介護が必要となり、外国人の介護士の方々の世話になるのだろうと想像しています。皆さんが働く職場でも、当たり前のように外国の方々と一緒に働いているでしょう。国際感覚を身に付け、上手にお付き合いをしていけるようにならないといけないのは、皆さんも私も同じですね。

それと、最近ニュースでも取り上げられていますが、人手不足が原因で、コンビニなどが24時間営業をやめるとか、ファミレスや回転ずしチェーンが、年中無休営業をやめるとか言っていますよね。これも二つの社会現象ですが、私は、むしろ、そうやって、少し昔の生活に戻してもいいのではないかと思っています。

「便利さ」と「お金儲け」を優先して進んできた社会の変化によって、「昼間に働き、夜は休む」という人間本来の生き方が、おかしな方向へ向いてしまったような気がするからです。体も心も、おかしくなりますよね。資源の少ない日本は、優れた科学技術によって、国民の生活を向上させてきた国です。これからもそれは重要です。しかし、多くの子供たちが、スマホ依存症になり、それが不登校の原因の一つにもなっている現実や、職場の過剰なストレスが原因で、自殺する人が後を絶たない現状などを、このまま放っておいていいはずがありません。人口減少、人手不足をきっかけに、この際、一旦立ち止まって、日本人は、生き方を考え直してみべきかもしれないと思うのです。どうか皆さんは、誰かが作り出す流行などに流されず、一人ひとりが、新しい時代にふさわしい、人の生き方を考え、行動していつてください。

三つ目のお話です。日本を含めて、先進国と呼ばれている国々は、十分に成長ととげ、今は「成熟期」に入ったといわれています。だから、これからは、あまり大きな成長は期待しにくいのです。しかし、だからこそ、これからは、人間にとって本当の幸せとは何かを考える時代かもしれません。

将来の予測がつきにくい時代。変化のスピードがすごく早い時代。そういう時代の中で、何事にも柔軟に対応し、強く、たくましく、健やかに、皆さんが、充実した人生を送ってくれることを、心から願っています。以上、願いをこめて、三つのお話を終わります。

最後になりましたが、保護者の皆様には、一言お礼を申し上げます。三年間にわたり、様々な学校の活動にご支援、ご協力賜りまして、誠に、ありがとうございます。これからは二見中学校が、お子様の「母校」となります。その母校、二見中学校が、ふるさと二見町の宝として、益々、発展を遂げていきますよう、今後とも、地域の皆様と共に、ご支援のほど、何卒、よろしくお願い申し上げます。

卒業生の皆さんの前途に、輝かしい未来を信じ、式辞といたします。

二〇一九年(平成三十二年)三月八日

明石市立二見中学校 校長 木村 孝

